

平成 28 年 3 月 14 日

男子体操競技情報 23 号 (改訂版)

(公財) 日本体操協会

リオデジャネイロオリンピック男子体操競技強化本部

審判委員会男子体操競技審判本部

2016年3月1日付でFIG男子技術委員会により新たな情報(Newsletter #30)が発表されたことを受け、男子体操競技情報23号の内容を一部変更し(変更部分赤字表示)、改訂版として通達します。変更箇所は別刷に記載してあります。

この情報は、国内において2016年4月1日から適用いたします。

【目次】

1	はじめに	1
2	第46回世界体操競技選手権グラスゴー大会報告	2
3	平成27年度国内競技大会総括	12
4	2015年Dスコアランキング	15
5	2013年版採点規則正誤表	18
6	2016年度採点指針	19
7	2016年度国内内規	20
8	おわりに	21
※	難度認定及び演技実施の確認事項とFIG通達	別刷

1. はじめに

リオデジャネイロオリンピック男子体操競技強化本部
男子体操競技強化本部長 水鳥 寿思

2015年世界選手権グラスゴー大会では、日本体操界の悲願であった37年ぶりの団体総合金メダルを獲得することができました。また、内村航平選手の前人未到の個人総合6連覇をはじめ、個人種目においても3個の金メダルと1個の銅メダルを獲得し、大きな成果を上げることができました。しかしながら、大きな成果を得るとともに多くの課題が見つかったことも事実です。団体決勝における複数の大過失や、中国との4.3点にもおよぶDスコアの差、また、怪我への対応などが挙げられます。これらの課題を一つずつクリアしていかなければ、リオデジャネイロオリンピックでは同等以上の成果は得られないでしょう。十年来続いた中国一強時代は終焉し、様々な国の選手が力をつけてきています。これは、上位のチーム・選手がベストな状態で試合に臨んでくれば、日本が一気にメダル圏外へ転落する可能性があることを意味しています。

私たちの最大の目標はリオデジャネイロオリンピックにおける団体金メダルの獲得です。その目標を達成するためには、選手自身の努力が最も重要であることは言うまでもありませんが、それだけで達成できるほど容易な目標ではありません。コーチ、審判員、その他携わる全ての関係者全体が同じ方向を向き、それぞれの立場で力を発揮していただくことが何よりも必要であると考えています。今後も引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

2. 第 46 回世界体操競技選手権グラスゴー大会報告

後藤 洋一
高橋 孝徳

1. 派遣期間：2015 年 10 月 18 日(日)～11 月 4 日(水)
2. 開催地：イギリス グラスゴー
3. 会場：The SSE Hydro
4. 審判員：後藤 洋一（審判委員会副委員長）
高橋 孝徳（男子体操競技審判本部本部長）
5. 日程：大会スケジュール

10 月	18 日	(日)	出国
	19 日	(月)	男子 FIG 技術委員・D 審判会議
	20 日	(火)	男子審判会議・抽選 (C I、C II)
	21 日	(水)	男子ポディウムトレーニング
	22 日	(木)	男子ポディウムトレーニング
	23 日	(金)	女子予選
	24 日	(土)	女子予選
	25 日	(日)	男子予選 (1 班～4 班) ※日本 3 班
	26 日	(月)	男子予選 (5 班～8 班)
	27 日	(火)	女子団体決勝
	28 日	(水)	男子団体決勝
	29 日	(木)	女子個人総合決勝
	30 日	(金)	男子個人総合決勝
	31 日	(土)	種目別決勝 男子 FX、PH、SR 女子 VT、UB
11 月	1 日	(日)	種目別決勝 男子 VT、PB、HB 女子 BB、FX
	2 日	(月)	グラスゴー → ロンドン 移動
	3 日	(火)	出国
	4 日	(水)	帰国

6. 参加国：85 カ国 (計 584 名 男子 299 名 女子 285 名)

種目別エントリー数

6 種目エントリー：182 名

ゆか：238 名

あん馬：237 名

つり輪：234 名

跳馬：232 名 (2 跳越 33 名)

平行棒：235 名

鉄棒：235 名

7. 審判会議報告：

□ ゆか

- ・力静止技での柔軟性に欠ける捌き：-0.10、-0.30
- ・静止時間不足：2 秒未満-0.30、静止しない (=難度不認定) -0.50
- ・力技や旋回技でゆかに触れる：-0.10
- ・アクロバット技の高さがない実施の減点：-0.10、-0.30
- ・アクロバット技の連続途中における着地での足開きは減点なし。
- ・宙返り転技での開きのない捌き：-0.10～0.50
- ・コーナーへの単純なステップや移動：-0.10
- ※ 180 度以上のターンが必要となる。
- ・演技終了は両足を揃えたところで計測が終了となる。

□ あん馬

- ・交差倒立で腰が低すぎる捌き：-0.50
- ・交差倒立での腰まがり、程度により不認定もあり得る。
- ・交差倒立で両手がポメルから馬背に降りた場合：難度不認定
- ・旋回または開脚旋回から倒立に上げる際、腰のまがりによる減点はない。
※力の使用、腕のまがり、腰の下がり、不安定性についての減点はある。
- ・シュピンドルのスタート時での縦向き、または横向きからの角度の逸脱は相応の減点。

□ つり輪

- ・脚上挙十字懸垂は、腕が水平で脚は垂直でなければならない。
- ・不要な腕のまがりは減点の対象となる：-0.10～0.50
※ 演技開始等で逆懸垂になる際の腕のまがり：-0.10、-0.30
※ 十字懸垂の後の腕のまがり：-0.10～-0.50
- ・難度表にない 2 秒以上の停滞：毎回-0.10
- ・力技での姿勢の逸脱はそれぞれに減点の対象となる。
十字懸垂 → 肩の高さは輪と同じ、身体は真っすぐ、手首の巻き込みがないこと
中水平支持 → 身体は輪の高さで水平であり身体は真っすぐ、手首の巻き込みがないこと
開脚水平支持 → 身体は水平であり身体は真っすぐ、腰のまがりがないこと

□ 跳馬

- ・第 1 局面の脚開き、膝のまがり
- ・着手時の軸ぶれ
- ・第 2 局面の姿勢（宙返りの脚開き、つま先）
- ・跳馬で 2 本の跳越を実施する場合、40 秒を確保し、選手の準備を保証する。

□ 平行棒

- ・器械の準備に関しては、最大 3 人（選手と他に 2 名）がバーの準備を行うことができる。
- ・静止技での時間不足：-0.30（2 秒未満）（脚前挙支持、力倒立を含む）
- ・モリスエやベレーで腕支持になる際の体の伸ばしがない：-0.10、-0.30
- ・シャルロの両手の幅はひと握り分以下が要求される。それ以上開いた場合、程度により減点。
- ・モリスエやベレーでバーにぶつかるような捌きの減点：-0.50
- ・バブサーで明らかな支持が見られた場合は不認定：-0.50
- ・モイの開始姿勢は倒立からでなくても認定される。

□ 鉄棒

- ・モズニクやリンチで懸垂時に 1/2 ひねりが完了していない場合：-0.10、-0.30
- ・ツォ・リミンは、1 回ひねり+1 回ひねりで C 難度と判定し、ひねり不足は減点の対象や不認定となるケースもある。
※ 1 回ひねりの後、顔が進行方向に向く状態が見られることを条件とする。

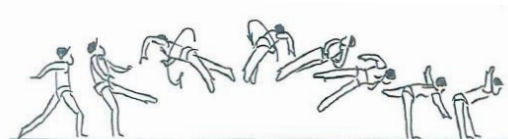
□ その他

- ・D スコアに対する質問は、アリーナ内に設置されたインクワイヤリデスクに書面を提出すること。

8. 新技申請：

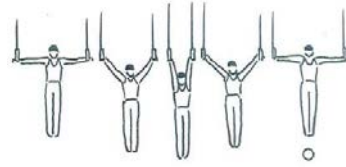
□ ゆか

- ・後方バタフライ 1 回ひねり：B 難度(I-92)（トンフェイと同枠）
BEHAN, Kieran (IRL)
※ 発表せず

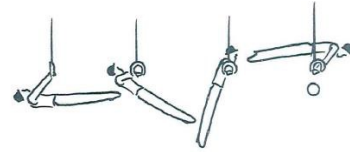


□ つり輪

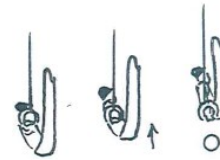
- ・ 十字懸垂から伸腕で下ろして懸垂、引き上げ十字懸垂(2 秒) : C 難度(IV-63)
(リー・シャオシュンと同枠)
NGUYEN, Marcel (GER)



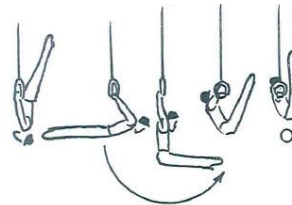
- ・ 伸腕伸身正面水平懸垂から十字懸垂経過水平支持(2 秒) : D 難度(IV)
PHAM, Phuoc Hung (VIE)



- ・ 脚上挙十字懸垂から引き上げ脚上挙支持(2 秒) : D 難度(IV)
TSUKAHARA, Naoya (AUS)



- ・ リー・ニンから直接脚上挙十字懸垂(2 秒) : D 難度(III)
TSUKAHARA Naoya(AUS)



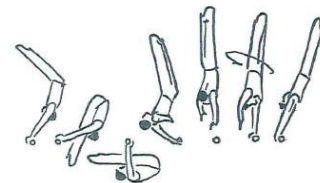
□ 平行棒

- ・ 棒端、懸垂前振り後方 2 回宙返り 2 回ひねり下り : F 難度(V)
CALVO, Jossimar (COL)



□ 鉄棒

- ・ アドラーとび 1 回ひねり両大逆手 : E 難度(IV-5)
(アドラー1 回ひねり両逆手と同枠)
FUENTES, Jose Luis (VEN) 2015 年パンアメリカン Toronto 大会で発表



9. 審判団 :

◆ 参加審判

67 カ国 103 名

D 審判 : 12 カ国 12 名 R 審判 : 12 カ国 12 名 E 審判 : 64 カ国 79 名

1 カ国 2 名派遣国 : 34 カ国

◆ D 審判団

FX	D1 : CARRILES Pablo (ESP)	D2 : LAZZARICH Diego (ITA)
PH	D1 : ANDREEV Dimitry (RUS)	D2 : 後藤 洋一 (JPN)
SR	D1 : PROVIAS Nikolaos (GRE)	D2 : SZYJKO Paul (AUS)
VT	D1 : DEJANOVIC Dejan (SRB)	D2 : THINGVOLD Tom (NOR)
PB	D1 : GRABOWECKY Christopher (CAN)	D2 : FEDARAU Andrey (BLR)
HB	D1 : ZUNICH Butch Andreja (USA)	D2 : MAY James (GBR)

◆ R 審判団

Name	NF	Cat.	予選	団体	個人	種目別
REIMERING Vincent	NED	1	SR	VT	HB	FX
SCHEDLER Andreas	AUT	2	VT	HB	PH	PB
SURPIKAS Viktoras	LTU	2	FX	FX	FX	HB
TORO Enrique	ECU	2	PH	PB	FX	PH
SALANITRO Enrique	ARG	2	HB	SR	VT	PB
POP Andrei	FIN	2	PB	PB	PB	FX
YUEN Ka Keung	HKG	1	PB	HB	SR	PH
BERNABE Douglas	ESA	2	VT	VT	VT	SR
BERCZI Istvan	HUN	1	FX	SR	SR	HB
HADJI Mohamed Smail	ALG	1	HB	FX	PH	VT
GIORGADZE Ilia	GEO	2	SR	PH	HB	SR
VOKUJA Mario	CRO	1	PH	PH	PB	VT

◆ 抽選結果

高橋 孝徳 個人総合決勝 跳馬 E4

種目別決勝前半 リザーブ1 (インクワイヤリー席で待機)

◆ 審判席配置について

試合会場の審判配置は、通常の種目器械周りではなく、アリーナ端、観客席前に一列に設置されたレイアウトであった。

ゆかを除く5種目では、フロア面よりも高い位置に設置され、通常より高い視点で演技を見る位置関係であった。

E 審判の席には仕切り板が設置され、隣接した審判員との会話・相談を防ぎ、独立して採点業務に当たるようになっていた。

10. 結 果：

□ 日本選手予選結果

個人総合	内村 航平	90.564	1位 予選通過
	萱 和磨	88.431	8位 予選通過
	田中 佑典	87.923	12位
ゆか	白井 健三	16.100	1位 予選通過
	田中 佑典	14.800	16位
あん馬	萱 和磨	15.300	4位 予選通過
	内村 航平	15.133	9位

つり輪	内村 航平	14.800	21 位
	田中 佑典	14.766	22 位
跳馬	白井 健三	15.166	6 位 予選通過
平行棒	田中 佑典	15.758	2 位 予選通過
	内村 航平	15.466	10 位
鉄棒	内村 航平	15.366	2 位 予選通過
	加藤 凌平	15.000	10 位
※個人総合は 6 種目エントリー、種目別は上位 2 名を記載			

□ 予選団体

Rk.	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
1	日本	59.632	58.632	57.966	61.132	61.623	59.899	358.884
2	CHN	58.865	56.933	60.266	59.998	62.099	58.866	357.027
3	GBR	59.299	59.931	58.532	60.165	59.058	57.432	354.417
4	RUS	55.031	58.766	59.399	60.832	60.699	57.965	352.692
5	USA	58.031	54.498	60.240	59.866	59.632	58.065	350.332
6	SUI	58.666	56.698	56.533	59.033	60.732	58.465	350.127
7	BRA	57.849	56.965	58.165	59.448	58.165	58.465	349.057
8	KOR	57.665	55.598	57.065	59.632	59.841	56.365	346.166

□ 団体決勝

Rk.	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
1	日本	47.258	45.166	43.798	45.766	45.665	43.165	270.818
2	GBR	45.766	44.999	43.666	45.499	45.532	44.883	270.345
3	CHN	44.565	41.565	45.999	45.666	47.765	44.399	269.959
4	RUS	44.366	43.600	44.165	45.900	46.266	44.065	268.362
5	USA	43.933	42.032	45.066	44.624	46.133	46.065	267.853
6	SUI	44.232	42.998	42.165	43.333	45.799	43.133	261.660
7	KOR	43.082	42.066	42.823	44.999	43.832	43.233	260.035
8	BRA	44.666	39.432	44.699	44.316	42.932	43.532	259.577

□ 個人総合決勝

Rk.	選手	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
1	内村 航平	日本	15.733	15.100	14.933	15.633	15.833	15.100	92.332
2	LARDUET M	CUB	14.666	14.300	15.233	15.433	15.733	15.333	90.698
3	DENG Shudi	CHN	15.133	14.400	14.533	15.300	15.933	14.800	90.099
10	萱 和磨	日本	14.666	15.400	14.033	14.700	14.933	14.466	88.198

□ 種目別決勝

ゆか	白井 健三	16.233	1 位	金メダル
あん馬	萱 和磨	15.500	3 位	銅メダル
跳馬	白井 健三	14.516	7 位	
平行棒	田中 佑典	15.600	7 位	
鉄棒	内村 航平	15.833	1 位	金メダル

11. 所 感：

37年ぶりの王座奪還。日本の全ての関係者が長年待ち望んでいた団体金メダルのタイトルを獲得できた。昨年の惜敗から、「忘れ物を取りに行く」を合言葉に、練習に励んできた選手たちの努力の賜物である。

今回のメンバーは代表決定後からケガに苦しむ選手が多く、また事前の情報収集による戦力分析から中国とのDスコア総計の差は昨年よりもひろがる等、不安な要素が多々あった。万全でない状態で現地に乗り込み、試合に挑まざるをえない状況の中、選手たちが各々の役割をしっかりと果たし、不安を払拭して目標を達成できたことに心より称賛を送りたい。

団体決勝において、中国とのDスコア総計の差は、最終的に-4.30であった(表1)。ゆかで1.60、跳馬で0.20のアドバンテージであったが、他4種目には大きなビハインドがあった。中国の平行棒、鉄棒はいずれも総計で21点を超えたDスコアであり、つり輪は-2.10もの差をつけられていた。この差を埋める対策を早急に立て、真摯に取り組まなければ、日本の黄金期を迎えることはできないであろう。

今回、予選の結果で中国にプレッシャーをかけることができたこと、決勝のゆか、あん馬で大きな差をつけることができたことが勝利の一因だと感じた。また、Eスコアが各種目とも予選と同様に厳格に採点されていたことは、日本にとって有利にはたらい。過去、Dスコア総計の差をEスコア総計で埋めることができない状況が続いていたが、今大会では4.30ものDスコア総計の差を挽回することができた。しかしながらEスコアは予測が難しい評価領域であるので、次の大会が必ず今回のようになるとは限らない。高いDスコアを獲得することは勝つための必須条件の1つであることは言うまでもないが、それと同時にどのような場面でも大きなミスなく演技を披露することができる安定力の獲得が重要であると痛感した。

2位イギリスとのEスコア総計の比較では4種目で下回った(表2)。地元の有意差も然ることながら、最終種目のゆかでしっかり着地を決めてくるなど、万全に仕上げきており、また勢いを感じる出来栄であった。あん馬にはスペシャリストが2名おり、Dスコアの総計は20.8と非常に高い。やや硬い演技でEスコアは伸びなかったが、どんな状況でも落下をしない粘り強さを持っている印象を受けた。

◆団体上位3カ国のDスコア(表1)

	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
日本	21.5	19.1	18.5	18.2	19.6	19.3	116.2
イギリス	19.7	20.8	18.2	18.0	19.3	19.3	115.3
中国	19.9	19.6	20.6	18.0	21.4	21.0	120.5
日英比較	1.8	-1.7	0.3	0.2	0.3	0	0.9
日中比較	1.6	-0.5	-2.1	0.2	-1.8	-1.7	-4.30

◆団体上位3カ国のEスコア(表2)

	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
日本	25.758	26.066	25.298	27.566	26.065	23.865	154.618
イギリス	26.066	24.199	25.466	27.499	26.232	25.583	155.045
中国	24.665	21.965	25.399	27.666	26.365	23.399	149.459
日英比較	-0.308	1.867	-0.168	0.067	-0.167	-1.718	-0.427
日中比較	1.093	4.101	-0.101	-0.100	-0.300	0.466	5.159

4位のロシアは、平行棒で選手全員が前方系の終末技を実施していた。これに関して日本は出遅れを感じざるを得ない。Dスコアを少しでも上げるため、今後積極的に取り組むようお願いしたい。

5位のアメリカは、エースのミクラックが参加しておらず、さらにその他の主要メンバーが欠けていたため、精彩を欠く演技に甘んじていた。リオ五輪でフルメンバーが揃えば、一気に点を伸ば

してくると予想される。

日本は 5、および 6 種目で落下等の大きなミスを複数回出してしまった。これらの原因を様々な視点から分析・検証し、明らかにするとともに対策を打ち出し、どんな状況下であっても勝利を手繰り寄せる力を身につけてほしい。

個人総合では、内村選手が 2009 年から 6 大会連続の優勝を飾った。得点だけを見れば結果的に圧勝であったが、2 位以下の選手の成長も著しく、とりわけキューバの LARDUET 選手は世界大会初出場ながら、素晴らしい能力を発揮し、銀メダルに輝いた。まだ 19 歳であるため今後さらに成長する可能性があり、内村選手を脅かす存在である。

今回、個人総合決勝上位 8 名の D スコアでは、VERNIAIEV 選手が 40.10 と唯一 40 点台であった（表 3）。次いで DENG Shudi 選手と WHITTENBURG 選手が 39 点台であり、内村選手は鉄棒でカッシーナを抜いたため、実質は 39.40 となる。D スコアの 6 種目合計は年々上昇しており、メダル争いには 39 点以上が必要条件になってきた様子である。

E スコアでは、内村選手のみが 53 点台にのせ、美しく正確な演技が評価された結果となった（表 4）。次いで地元の Purvis 選手、銀メダルを獲得した LARDUET 選手が続いた。LARDUET 選手はゆかの着地が安定しない等、演技が粗削りで、まだ完成されていない印象であるので、今後の成長余地は大きいと予想される。

◆ 個人総合決勝進出者上位 8 名 D スコア（表 3）

			FX	PH	SR	VT	PB	HB	Total	個人総合
1	VERNIAIEV O	UKR	6.80	6.80	6.60	6.00	7.20	6.70	40.10	4
2	DENG Shudi	CHN	6.70	6.40	6.60	6.00	7.10	6.80	39.60	3
3	WHITTENBURG D	USA	6.80	6.10	6.70	6.40	6.90	6.30	39.20	8
4	LARDUET M	CUB	6.50	6.00	6.70	6.00	6.70	7.00	38.90	2
5	内村 航平	日本	6.90	6.20	6.20	6.20	6.80	6.50	38.80	1
6	WHITLOCK M	GBR	6.80	7.20	5.70	6.00	6.20	6.10	38.00	5
7	KUKSENKOV N	RUS	6.10	6.20	6.00	5.60	6.60	6.90	37.40	6
8	PURVIS D	GBR	6.40	6.20	6.10	5.60	6.60	5.90	36.80	7
*	萱 和磨	日本	6.00	6.80	6.10	5.60	6.60	6.60	37.70	10

◆ 個人総合決勝進出者上位 8 名 E スコア（表 4）

			FX	PH	SR	VT	PB	HB	Total	個人総合
1	内村 航平	日本	8.833	8.900	8.733	9.433	9.033	8.600	53.532	1
2	PURVIS D	GBR	8.766	8.466	8.366	9.300	8.800	8.566	52.264	7
3	LARDUET M	CUB	8.166	8.300	8.533	9.433	9.033	8.333	51.798	2
4	KUKSENKOV N	RUS	8.566	8.733	8.800	9.266	8.433	8.000	51.798	6
5	WHITLOCK M	GBR	8.900	8.900	8.816	9.000	8.900	6.733	51.249	5
6	DENG Shudi	CHN	8.433	8.000	7.933	9.300	8.833	8.000	50.499	3
7	WHITTENBURG D	USA	8.466	8.066	8.833	8.133	8.733	7.366	49.597	8
8	VERNIAIEV O	UKR	8.175	6.766	8.633	9.300	8.800	7.866	49.540	4
*	萱 和磨	日本	8.666	8.600	7.933	9.100	8.333	7.866	50.498	10

種目別決勝では、ゆかで白井選手が安定した演技で決勝に進み、16.233 の高得点を獲得し二年ぶりの金メダルに輝いた。

あん馬は WHITLOCK 選手が予選より D スコアを 0.10 上げ 7.30 に、Smith 選手は 6.90 から 7.20 に上げて挑み、両選手ともほぼ完ぺきな演技を披露した。E スコアはともに 8.833 であり、D スコアの違いがメダルの色を分けた。3 位には萱選手とアルメニアの MERDINYAN 選手が同点で銅メダルに輝いた。4 名ともにブスナリ (G) を実施しており、徐々にではあるが導入する選手が増

えている印象であった。特にメダル争いに絡むには習得する必要がある技の一つであろう。

つり輪には日本選手が唯一残ることができなかった。日本選手では内村選手の 21 位が最高順位であり、課題種目であることが、改めて認識させられた。金メダルはヨーロッパ選手権で優勝したギリシャの PETROUNIAS 選手であった。捌きの特徴として、中水平や十字懸垂で手のひらを開き、指を伸ばすことにより強さをアピールする表現がなされていた。2 位と 3 位には中国選手が入った。日本と諸外国とのつり輪の演技を比較すると、力技を終えた後の表現に違いがあると感じる。2 秒静止した後の力尽きたような捌きは弱さを感じる。技の終了から次の技へのアプローチも丁寧にみせる表現方法が必要である。

跳馬での優勝は北朝鮮の RI Se Gwang 選手で 1 本目はリ・セグゥアン 2 (前転とび前方屈身 2 回宙返りひねり)、2 本目はリ・セグゥアン (側転とび 1/4 ひねり後方かかえ込み 2 回宙返り 1 回ひねり) と両跳越とも本人の名がついた技を実施し、昨年に続き連覇を飾った。2 本とも価値点 6.40 の跳越であった。白井選手は 1 本目のシライ・キムヒフンがひねり不足となり、5.60 の価値点になってしまった。そのため、2 本目はドゥリッグスをアカピアンに変更して実施し、結果 7 位という順位になった。

平行棒では田中選手が予選 2 位で通過した。しかしながら決勝では他の選手たちとの D スコアの差が大きく、E スコアで唯一 9 点台を出したが、7 位に終わった。

優勝は YOU Hao 選手が 7.30 という高い D スコアの演技構成を安定した実施でおこない、16.216 の高得点で金メダルに輝いた。平行棒では D スコアを 7 点台にのせることがメダル争いへの条件になると思われる。

鉄棒には内村選手が出場した。D スコアの高い ZONDERLAND 選手や ZHANG Chenglong 選手は予選において E スコアが伸びず決勝には進めなかった。内村選手はアドラー 1 回ひねりでやや停滞があり、着地では僅かにホップしてしまったが、美しい演技を披露し、最後に有終の美を飾った。2 位にはダイナミックな演技で LEYVA 選手が、3 位には注目の新星、キューバの LARDUET 選手がメダルを獲得した。LARDUET 選手は終末技で予選から全ての演技で後方伸身 2 回宙返り 3 回ひねり下り (F) を安定した実施で披露した。

本大会で日本は金 4 個、銅 1 個のメダルを獲得し、好成績を収めることができた。金メダルを複数獲得した国は日本のみであったが、メダル獲得数では中国が上回り 6 個であった。来年のリオオリンピックにむけて世界に大きくアピールができた大会であったが、団体決勝での後半種目の不安要素や、つり輪で世界との差を埋めていかなければ、今回と同様、またはそれ以上の成績を収めるのは容易ではない。D スコアの差は国内全体で底上げしていくことを早急に対応していかなければならない。また、本来種目別決勝に残ることが可能であった種目でのミスや取りこぼしを繰り返さないように強化を進めて頂きたい。

会場の雰囲気については国内大会とはまるで異なりショーのようなセッティングや進行方法であり、その様な環境下でも普段通りの演技が実施できるように対応策を考える必要があると感じた。

今回、得られた念願の団体優勝を自信にしつつ、「勝って兜の緒を締めよ」の諺にならい、気をゆるめず、さらに心を引き締め、リオオリンピックに向けて精進することを願いたい。

リオオリンピック団体決勝では、是非とも最後の鉄棒を完ぺきな演技で締めくくり、再び頂点に立つことを期待したい。

12. 種目別上位者の演技構成

◆ ゆ か

1. 白井 健三 (JPN) 16.233 D7.60 E8.633

後方宙返り 7/2 ひねり～前方宙返り 2 回ひねり (E+D)、後方かかえ込み 2 回宙返り 3 回ひねり (G)、倒立から伸膝前転脚前拳支持経過倒立 (C)、前方宙返り 1 回ひねり～前方宙返り 3 回ひねり (C+F)、後方宙返り 5/2 ひねり～前方宙返り 5/2 ひねり (D+E)、側方宙返り 1 回ひねり (C)、後方宙返り 4 回ひねり (F)

2. WHITLOCK Max (GBR) 15.566 D6.80 E8.766

前方宙返り 1 回ひねり～前方宙返り 5/2 ひねり (C+E)、後方宙返り 7/2 ひねり～前方宙返りひねり (E+B)、シュピンドル旋回～倒立、下ろして旋回 (D)、開脚旋回倒立とび 180° ひねり開脚旋回 (D)、十字倒立 (C)、後方宙返り 5/2 ひねり～前方宙返り 3/2 回ひねり (D+C)、伸身トーマス (E)、後方宙返り 3 回ひねり (D)

3. ZAPATA SANTANA Rayderley Miguel (ESP) 15.200 D6.70 E8.500

後方宙返り 3/2 ひねり～前方屈身 2 回宙返り (C+E)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり (F)、前方宙返り 1 回ひねり～前方宙返り 2 回ひねり (C+D)、後方宙返り 5/2 ひねり～前方宙返りひねり (D+B)、十字倒立 (C)、伸身トーマス (E)、後方伸身 2 回宙返り (D)

◆ あん馬

1. WHITLOCK Max (GBR) 16.133 D7.30 E8.833

逆交差倒立 (D)、コンバイン (F)、フロップ (E)、ブスナリ (G)、シュピンドル (D)、マジヤール (D)、シバド (D)、ウ・グォニアン (E)、ロシアン 1080° (D)、dsA 倒立 450° ひねり 3/3 移動下り (E)

2. SMITH Louis (GBR) 16.033 D7.20 E8.833

逆交差倒立 (D)、リーニン (D)、フロップ (E)、コンバイン (E)、シュピンドル (D)、ブスナリ (G)、ウ・グォニアン (E)、マジヤール (D)、シバド (D)、dsA 倒立 450° ひねり 3/3 移動下り (E)

3. MERDINYAN Harutyun (ARM) 15.500 D6.70 E8.800

正交差横移動ひねり (C)、コンバイン (D)、フロップ (E)、ブスナリ (G)、あん部馬背ロシアン 1080° (E)、1/2 後ろ移動 (B)、ロシアン 1080° (D)、マジヤール (D)、シバド (D)、dsA 倒立 3/3 移動下り (D)

3. 萱 和磨 (JPN) 15.500 D6.80 E8.700

1 回の旋回で正面横移動 (D)、ブスナリ (G)、逆交差倒立 (D)、フロップ (E)、コンバイン (D)、ロス (D)、馬端から両把手を越えてロシアン 180° 転向移動 (C)、マジヤール (D)、シバド (D)、dsA 倒立 450° ひねり 3/3 移動下り (D)

◆ つり輪

1. PETROUNIAS Eleftherios (GRE) 15.800 D6.80 E9.00

ヤン・ミンヨン (E)、バンゲルダー (E)、ゆっくり後方伸腕伸身逆上がり中水平支持 (F)、後方車輪倒立 (C)、後ろ振り上がり水平支持 (D)、ナカヤマ (D)、ホンマ十字懸垂 (D)、ジョナサン (D)、前方車輪倒立 (C)、後方 2 回宙返り 2 回ひねり下り (E)

2. YOU Hao (CHN) 15.733 D7.00 E8.733

ゆっくり伸腕伸身逆上がり中水平支持 (F)、後ろ振り上がり中水平支持 (E)、懸垂から伸腕伸身水平支持 (バランディン 3) (E)、後方車輪倒立 (C)、伸身グチョギー (E)、支持後ろ振り出し、背面懸垂前振り上がり脚前拳十字懸垂 (D)、アザリアン (D)、ジョナサン (D)、後ろ振り上がり倒立 (C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り (F)

3. LIU Yang (CHN) 15.700 D6.90 E8.80

ゆっくり伸腕伸身逆上がり中水平支持 (F)、引き上げ十字倒立 (E)、ジョナサン (D)、ホンマ十字懸垂 (D)、十字懸垂から引き上げ十字倒立 (E)、後ろ振り上がり水平支持 (D)、ヤマワキ経過、後ろ振り上がり中水平支持 (E)、ナカヤマ (D)、後ろ振り上がり倒立 (C)、後方車輪経過、後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり下り (D)

◆ 跳馬

1. RI Se Gwang (PRK) 15.450

1 本目：リ・セグアン 2 15.600 D6.40 E9.200

2 本目：リ・セグアン 15.300 D6.40 E8.900

2. DRAGULESCU Marian (ROU) 15.400
 1 本目：ドラグレスク 15.300 D6.00 E9.300
 2 本目：リー・シャオペン 15.500 D6.20 E9.300
3. WHITTENBURG Donnell (USA) 15.350
 1 本目：ドラグレスク 15.100 D6.00 E9.100
 2 本目：リ・セグゥアン 15.600 D6.40 E9.200

◆ 平行棒

1. YOU Hao (CHN) 16.216 D7.30 E8.916
 後ろ振り上がり前方宙返り支持(D)、ドミトリエンコ (E)、タナカ (F)、棒下宙返りひねり倒立(E)、棒下宙返り倒立(D)、屈身ベーレ (E)、バブサー (E)、チッペルト(D)、ヒーリー(D)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(F)
2. VERNIAIEV Oleg (UKR) 16.066 D7.10 E8.966
 後ろ振り上がり前方宙返り支持(D)、棒下宙返りひねり倒立(E)、シャルロ(E)、前方開脚 5/4 宙返り支持(E)、棒下宙返り倒立(D)、チッペルト(D)、バブサー (E)、ヒーリー(D)、ピーターズ(D)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(F)
3. STEPKO Oleg (AZE) 15.966 D7.00 E8.966
 後ろ振り上がり前方宙返り支持(D)、マクーツ (E)、シャルロ(E)、単棒ヒーリー(E)、棒下宙返り倒立(D)、棒下宙返りひねり倒立(E)、前方開脚 5/4 宙返り支持(E)、チッペルト(D)、ヒーリー(D)、後方屈身 2 回宙返り下り(D)
3. DENG Shudi (CHN) 15.966 D7.10 E8.866
 屈身ドミトリエンコ (F)、屈身モリスエ (E)、棒下宙返り倒立(D)、棒下宙返りひねり倒立(E)、屈身ベーレ (E)、後ろ振り上がり前方宙返り支持(D)、バブサー (E)、チッペルト(D)、ヒーリー(D)、後方屈身 2 回宙返り下り(D)

◆ 鉄 棒

1. 内村 航平 (JPN) 15.833 D7.10 E8.733
 屈身コバチ (E)、カッシーナ (G)、シュタルダーとび 3/2 ひねり片大逆手(D)、アドラーひねり倒立～コールマン(D+F)、アドラー1 回ひねり片逆手倒立～ヤマワキ(D+D)、エンドー (B)、後方とび車輪 1 回ひねり(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)
2. LEYVA Danell (USA) 15.700 D7.30 E8.400
 アドラー1 回ひねり両逆手倒立～ヤマワキ(E+D)、伸身コバチ(E)、コールマン (F)、シュタルダーとび 3/2 ひねり片大逆手(D)、アドラーひねり倒立～伸身トカチェフ～リバルコ(D+D+D)、エンドー1 回ひねり大逆手(D)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)
3. LARDUET Manrique (CUB) 15.600 D7.00 E8.600
 モズニク (E)、アドラーひねり倒立～伸身トカチェフ～開脚モズニク (D+D+D)、アドラー1 回ひねり片逆手倒立～ヤマワキ(D+D)、シュタルダーとび 3/2 ひねり片大逆手(D)、ツォ・リミン (C)、後方とび車輪 1 回ひねり(C)、後方伸身 2 回宙返り 3 回ひねり下り(F)

3. 国内競技会（全日本個人総合・種目別・団体選手権、NHK 杯）総括

□ ゆか

脚を開いて着地した後の捌きに関するルールが改定され、より正確な着地技術と安定した実施が求められるようになった。それにより選手たちの着地への意識が強調され、より丁寧な実施が見られるようになった。組合せ加点となる宙返りの連続技は、ほとんどの選手が同様の内容であったが、2つ目の宙返りの高さや着地の習熟性で差がついたように感じた。また、宙返りの連続において2つ目の宙返りを蹴るとき足の向きが不明確な実施（ひねり不足）が散見された。注意を要する捌きとして、助走やロンダードの進行方向を故意にまげて行い、宙返りのブレを相殺させようとする捌きが増えており、新たな実施減点の可能性として考えられる。

演技内容としては、後方宙返り 3 回半ひねりを実施する演技が多くなっており、技術伝播の早さを感じた。これからも、E スコアのみならず、D スコアにおいても世界をリードする種目であり続けて欲しい。

□ あん馬

倒立位を経過する技の実施が多くみられ、各選手が D スコアアップに努めてきている印象を持った。しかしながら、交差倒立技では腰をまげて力を使った実施が多くみられた。振動技術を利用して実施している選手においても、倒立のおさめが曖昧で、倒立位で肩が前に出たままや、反りの姿勢が目立つ実施、把手から降りてしまう過失が多く、相応の減点で対処した。

旋回からの倒立技においても実施する選手が増え、ブスナリは全日本個人決勝で 4 名、種目別決勝で 3 名（内 1 名は暫定 H 難度）、団体決勝で 5 名、NHK 杯で 5 名の選手が実施した。ブスナリの成功は最大の武器とはなるが、実施において力を使った捌き、停滞、スピード感に欠けるなどまだまだ改善の余地が残されている。今後、ブスナリの実施が普及し、スピード感のある捌きが出てくると、力を使ったスピード感にける捌きは減点がより厳しくなることが予想される。注意を要する課題として取り組んでもらいたい。

□ つり輪

今年度、「安定した演技実施を基盤に、高められた D スコアを有する演技を評価する」という指針のもとに採点に当たった。その結果、各選手が高難度の力技を多く実施し D スコアアップに努めてきた。とくに F 難度の力技や終末技を実施する選手が増えてきたことは特筆すべき点である。しかしながら、技の判定において曖昧な実施も多く、例えば、ホンマ十字懸垂で支持局面がみられる実施（B+B 難度と判定）や、開脚水平支持で腰が大きくまがった実施（難度不認定）が散見された。

一方、E スコアに目を向けると、力静止技の静止時間は比較的意識できているものの、脚前挙支持や倒立といった、容易な技での静止時間の不足がみられた。つり輪ではグループ II、III、IV の全ての技（IV-31,32,68 を除く）において 2 秒の静止が求められている。今一度静止時間に対する意識を高めていただきたい。また、逆懸垂での長い（2 秒以上）停滞や、技の前後での肘のまがり（特に「アザリアン」や「ゆっくりと後転中水平支持」の前や、十字懸垂後に逆懸垂に持ち込む際）の減点が多かった。

春先の大会に比べ、全日本団体選手権においては、力強さをアピールするような演技実施が高い評価を受けていた。特に上位選手の数名は演技に習熟性がみられ、丁寧な実施かつ、力静止技のおさめ方、静止時間、着地等、質の高い内容であった。次年度も引き続き、高難度技を多く取り入れられる技術と体力を身につけ、D スコアアップを目指していただくことを切望する。

□ 跳馬

昨年度、一昨年度と比較して D スコア 6.0 以上の跳越技の実施は増えており、また、安定した実

施もいくつかみられるようになった。特に NHK 杯における内村選手（コナミ）のリ・シャオペン（D6.2/E9.35）、種目別選手権における小倉選手（早稲田大学）の伸身カサマツとび 2 回半ひねり（D6.4/E9.45）、団体選手権における鈴木選手（福岡大学）のリ・セグゥアン（D6.4/E9.50）、谷川選手（順天堂大学）のブラニク（D6.0/E9.60）が印象に残る跳越であった。また、全日本団体選手権において清風高校が高校生のチームながら D スコア 6.0 の跳越技を 3 人揃えてきたことは素晴らしいことであると感じた。

一方、全日本種目別選手権においては 6.0 以上の跳越技を 2 本揃えてきた選手は少なく、該当する選手は 3 名であった。世界で種目別上位を狙うためには 6.0 以上の跳越技を 2 本揃えることは必要不可欠である。

E スコアに関しては、特に着地は跳越全体の印象にも影響してくる。もちろん跳越の大きさは比較される要素でもあるが、第一局面で脚開きがなく、第二局面が雄大な跳越で着地を止める、さらに余裕をもった着地の準備局面がみられる実施が E スコアの高得点につながっていくと感じられた。

< 4 大会での D スコア 6.0 以上の跳越技実施数 >

技名	D スコア	全日本個人		N 杯	全日本種目別		全日本団体	
		予選	決勝	決勝	予選	決勝	予選	決勝
ヨーII	6.0	2		2	3	3	1	1
ドラグレスク	6.0				1	1		
ブラニク	6.0							1
ロペス	6.0	4	3	3	3	2	2	6
ロペスひねり	6.4			1		1		
リ・セグゥアン	6.4	1			1	1	2	
シライキムヒフン	6.0	1	1	1		1		1
リ・シャオペン	6.2	1		1				
合計		9	4	8	8	9	5	9

※全日本種目別において、6.0 以上の跳越技を 2 本実施した選手は予選 3 名、決勝 3 名であった。

□ 平行棒

全体的に D スコアを高めようとする意識は感じられた。特にシャルロやバブサーを実施する傾向が顕著であった。しかし、それでも D スコアはある一定値で頭打ちになっており、これを打ち破るためには、さらにもうひと工夫を要する状況である。単棒縦向き倒立になる技（主にシャルロやピアスキー）については、一時期から比べて曖昧な実施がだいぶ減少したように感じられた。引き続き確実な実施が望まれる。ピータースは多用されている状況だが、不完全な実施により、それ以上の減点を伴っている例が多くみられた。安易な使用は避けられたい。着地については止まる演技が少ないのが現状である。意識しているとは思いますが、さらに精度を高めて欲しい。春先から夏にかけて、器械の準備や演技開始までに時間がかかり過ぎている選手が多くみられた。秋以降、その傾向は改善方向にあるが、未だに制限時間に不安を感じる選手もみられる。器械の準備も練習の一環と捉え、時間的に余裕のある演技開始が望ましい。

□ 鉄 棒

D スコアについては 6 点台後半から 7 点台にのる演技が徐々に増えてきている。アドラー 1 回ひねり～ヤマワキに代表されるように on bar と手放し技との組合せを取ることはもちろん、コバチ～コールマンなどの手放し技の連続も複数の選手が挑戦してきたことは喜ばしいことである。単発のカッシーナも頻度が増しているようだが、落下や実施減点がまだまだ多く、何種目めでも何番目

の演技であっても安定した演技が望まれる。また、アドラーひねり、アドラー1回ひねりにおいても、多くの選手が実施しているが、角度逸脱により不認定となる実施が若干みられた。特にヤマワキに繋げる場合にはヤマワキでも相当の減点を受ける場合が多かった。

E スコアについては8点台前半から中盤に集中する傾向にあった。ひねって大逆手になる技を多く組み入れて D スコアを上げようとする、角度減点を伴うためどうしても E スコアは伸び悩むことになる。一方、ひねって片大逆手になる技では高い位置で技が完了し、角度減点をされないような実施も徐々に増えていることも確かである。また、技をふんだんに入れると終末技へ影響し、着地をしっかりと止めてくる演技は少なかつたように感じた。「後方伸身 2 回宙返り 3 回ひねり下り」が国際的に広がってきている昨今、2 回宙返り 2 回ひねりでは確実に着地を止めたい。

4. D スコアランキング

2015年の国際大会、国内大会の個人総合と各種目のDスコアランキングを掲載する。

対象大会は世界選手権、ワールドカップシリーズ、チャレンジカップシリーズ、その他主要な国際大会、国内の主要競技会である。該当選手の最も高いDスコア、複数の大会で同スコアがある場合は、一競技会のみ取り上げた。

世界の状況を把握し、現場での目標の指標のひとつとして参考にして頂きたい。

◇ 発表された競技会と省略記載

競技会	記載	競技会	記載
世界選手権（予選）	WGC 予	全日本個人	AJ 個
世界選手権（種目別）	WGC 種	NHK 杯	N 杯
世界選手権（団体決勝）	WGC 団	全日本種目別	AJ 種
世界選手権（個人総合決勝）	WGC 個	全日本インカレ	インカレ
チャレンジカップ Cottbus	CCS・CTB	全日本シニア	シニア
チャレンジカップ Ljubljana	CCS・LJU	全日本団体	AJ 団
欧州大会	E・C	豊田国際	TOYOTA
メキシコ国際	MEX	アジア選手権大会	A・C
Pan American Games	PAG		

【個人総合】

世界ランキング

Rk.	選手	所属	FX	PH	SR	VT	PB	HB	AA	競技会
1	VERNIAIEV O	UKR	6.80	6.80	6.60	6.00	7.20	6.70	40.10	WGC 個
2	DENG S	CHN	6.70	6.40	6.60	6.00	7.10	6.80	39.60	WGC 個
3	内村 航平	日本	6.90	6.20	6.20	6.20	6.80	7.10	39.40	シニア
4	LARDUET M	CUB	6.80	6.00	6.70	6.00	6.70	7.00	39.20	WGC・予
4	WHITTENBURG D	USA	6.80	6.10	6.70	6.40	6.90	6.30	39.20	WGC 個

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	FX	PH	SR	VT	PB	HB	AA	競技会
1	内村 航平	コナミスポーツ	6.90	6.20	6.20	6.20	6.80	7.10	39.40	シニア
2	加藤 凌平	順天堂大学	6.70	6.50	6.20	6.00	6.50	6.90	38.80	A・C
3	山室 光史	コナミスポーツ	6.10	6.20	6.60	6.00	6.70	6.80	38.40	N 杯
4	山本 雅賢	徳洲会	6.00	6.40	6.60	5.60	6.40	7.00	38.00	シニア
5	萱 和磨	順天堂大学	6.00	6.90	6.20	5.60	6.60	6.60	37.90	インカレ

【ゆか】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	白井 健三	日本	7.70	TOYOTA
2	星野 力維	日本	7.20	AJ 個
2	早坂 尚人	日本	7.20	AJ 種
4	ABLIAZIN Denis	RUS	7.10	WGC 団
4	加藤 凌平	日本	7.10	AJ 種

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	白井 健三	日本体育大学	7.70	TOYOTA
2	星野 力維	筑波大学	7.20	AJ 個
2	早坂 尚人	順天堂大学	7.20	AJ 種
4	加藤 凌平	順天堂大学	7.10	AJ 種
5	五島 誉博	仙台大学	7.00	インカレ

【あん馬】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	WHITLOCK Max	GBR	7.30	WGC 種
2	SMITH Louis	GBR	7.20	WGC 種
2	亀山 耕平	日本	7.20	AJ 種
4	VERNIAIEV Oleg	UKR	7.10	E・C
5	萱 和磨	日本	7.00	TOYOTA

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	亀山 耕平	徳洲会	7.20	AJ 種
2	萱 和磨	順天堂大学	7.00	TOYOTA
3	山本 翔一	朝日生命	6.90	N 杯
4	垣谷 拓斗	セントラル	6.80	AJ 種
4	古谷 嘉章	仙台大学	6.80	AJ 種
4	長谷川智将	日本体育大学	6.80	AJ 団

【つり輪】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	YOU Hao	CHN	7.00	WGC 種
2	LIU Yang	CHN	6.90	WGC 種
2	AIT SAID Samir	FRA	6.90	CCS・LJU
2	PINHEIRO RODRIGUES D	FRA	6.90	CCS・LJU
2	岡村 康宏	日本	6.90	AJ 団

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	岡村 康宏	朝日生命	6.90	AJ 団
2	山室 光史	コナミスポーツ	6.80	AJ 種
2	神本 雄也	日本体育大学	6.80	AJ 団
4	佐藤 亘	相好体操クラブ	6.60	シニア
4	山本 雅賢	徳洲会	6.60	AJ 団
4	長野 託也	朝日生命	6.60	AJ 団
4	武田 一志	徳洲会	6.60	AJ 団
4	野々村笙吾	順天堂大学	6.60	AJ 団
4	鈴木 康平	日本体育大学	6.60	AJ 団

【跳馬】

跳越技 6.40 実施選手（世界）

	選手	国名	D スコア	競技会	跳越技
1	RI Se Gwang	PRK	6.40	WGC 種	リ・セグアン
	RI Se Gwang	PRK	6.40	WGC 種	リ・セグアン 2
1	WHITTENBURG D	USA	6.40	WGC 種	リ・セグアン
1	ABLIAZIN Denis	RUS	6.40	WGC 種	リ・セグアン
1	鈴田 佳祐	日本	6.40	A J 団	リ・セグアン
1	安里 圭亮	日本	6.40	A J 団	リ・セグアン
1	佐藤 巧	日本	6.40	シニア	伸身カサマツ 5/2 ひねり
1	小倉 佳祐	日本	6.40	AJ 種	伸身カサマツ 5/2 ひねり

跳越技 6.40、6.20 実施選手（日本）

	選手	所属	D スコア	所属	跳越技
1	鈴田 佳祐	福岡大学	6.40	A J 団	リ・セグアン
1	安里 圭亮	福岡大学	6.40	A J 団	リ・セグアン
1	佐藤 巧	徳洲会	6.40	シニア	伸身カサマツ 5/2 ひねり
1	小倉 佳祐	早稲田大学	6.40	AJ 種	伸身カサマツ 5/2 ひねり
5	内村 航平	コナミスポーツ	6.20	シニア	リー・シャオペン

【平行棒】

世界ランキング

Rk..	選手	国名	D スコア	競技会
1	YOU Hao	CHN	7.30	WGC 種
2	VERNIAIEV Oleg	UKR	7.20	WGC 個
3	DENG Shudi	CHN	7.10	WGC 種
3	HE Youxiao	CHN	7.10	A・C
5	STEPKO Oleg	AZE	7.00	WGC 種
5	LIN Chaopan	CHN	7.00	WGC 団
5	LEYVA Danell	USA	7.00	MEX
5	ZONDERLAND Epke	NED	7.00	CCS・CTB
5	神本 雄也	日本	7.00	A J 団

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	神本 雄也	日本体育大学	7.00	A J 団
2	内村 航平	コナミスポーツ	6.80	シニア
2	星野 力維	筑波大学	6.80	インカレ
2	田中 和仁	徳洲会	6.80	A J 種
5	山本 雅賢	徳洲会	6.70	A J 団
5	山本 翔一	朝日生命	6.70	A J 団
5	山室 光史	コナミスポーツ	6.70	A J 団
5	野々村笙吾	順天堂大学	6.70	A J 種
5	宮地 秀享	筑波大学	6.70	N 杯
5	横山 聖	コナミスポーツ	6.70	N 杯

【鉄棒】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	植松 鉦治	日本	7.70	シニア
2	ZHANG Chenglong	CHN	7.40	WGC 予
2	齊藤 優佑	日本	7.40	N杯
4	LEYVA Danell	USA	7.30	WGC 種
4	HAMBUECHEN F	GER	7.30	E・C
4	CALVO MORENO J O	COL	7.30	PAG
4	ZONDERLAND E	NED	7.30	CCS・CTB
4	田中 佑典	日本	7.30	N杯

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	植松 鉦治	コナミスポーツ	7.70	シニア
2	齊藤 優佑	徳洲会	7.40	N杯
3	田中 佑典	コナミスポーツ	7.30	N杯
4	尾崎 亮介	相好体操クラブ	7.20	A J 種
5	内村 航平	コナミスポーツ	7.10	A J 団

5. 2013 年版採点規則正誤表

日本語版 2013 年版採点規則の誤植・追加等による訂正

ページ	訂正箇所	(誤)		(正)
p22	下から 5 行目	(ユース : 8 技)	⇒	(ジュニア : 8 技)
p26	下から 1 行目	(補足 3 参照)	⇒	(補足 2 参照)
p30	9 - 1 条 1.	(補足 2 参照)	⇒	(補足 3 参照)
p37	9 - 4 条 E 審判の減点項目 倒立でぐらつく、または倒れる		⇒	小欠点 0.1 に + を追加
p113	IV-65 (バンゲルダー)		⇒	(2 秒) を追加
p125	1 3 - 2 条 D スコア 5	姿勢の定義は 4 部・3 を参照	⇒	姿勢の定義は補足 3 を参照
p133	II-16 かかえ込みツカハラとび 3/2 ひねり かかえ込みカサマツとびひねり 3.0		⇒	4.0
p200	第 4 部 補足 2.	(第 7 - 4 条 m を参照)	⇒	(第 7 - 4 条 k を参照)
p201	第 4 部 補足 3. i) iv	前転とび前方宙返り (グループ III)	⇒	(グループ I)
p201	第 4 部 補足 3. i) iv	側転とび 1/4 ひねり前方宙返り (グループ IV)	⇒	(グループ II)
p201	第 4 部 補足 4.	第 5 - 2 b と並んで	⇒	第 5 - 1 d と並んで

6. 2016 年度採点指針

□ 全体として

- ① 安定した演技実施を基盤に、高められた D スコアを有する演技
- ② 美しさ、力強さを表現した演技実施
- ③ 着地への準備局面を有し、意識的に止められる終末技

2015 年世界選手権グラスゴー大会で世界の頂点に立ったが、中国との D スコアの差は 4.30 と大きな差がある。頂点を守り続けるためには、どんな状況下でもミスなく演技を遂行できる安定性を保つと共に、D スコアの向上に努めていただきたい。

□ ゆか

- ① 雄大なタンブリングや正確なひねり技による先取りのある安定した着地
- ② グループ I の旋回技や力静止技において丁寧で美しさを表現する演技

ひねりを伴った宙返りの連続では、明確なひねりの終了を示して次の宙返りに連続することが要求される。タンブリングへの助走やロンダートを故意にまげること、技の実施を容易にしようとする捌きは技術欠点であり、これによる軸ブレや歪みは減点の対象となる。正しい動きに注意を払って実施してほしい。

□ あん馬

- ① 安定感があり、終末技までスピード感を保ち、しなやかかつ十分に体を伸ばした旋回
- ② 倒立を経過する旋回技や交差技において、スムーズに倒立位に持ち込める実施

ブスナリ系の技は、倒立でのひねりや移動でスピードが落ちる、振り下ろし局面で力を使用することは減点の対象となる。倒立を経過する技で上昇時に足先が明らかに下がれば難度は不認定となる。

□ つり輪

- ① 演技全体として力強さを表現した演技構成
- ② 倒立や静止技での正確な姿勢と静止時間

D スコアを高めるために、高難度の力静止技や終末技を演技に組み入れてほしい。中水平支持や十字懸垂の後に肘をまげて逆懸垂になる捌きは減点の対象である。また、逆懸垂での 2 秒以上の停滞も減点対象となるため、静止時間を極力短くし、メリハリのある演技を求めたい。

□ 跳馬

- ① 雄大で準備局面を示した着地を有する跳越
- ② 安定感、確実性のある D スコア 6.0 以上の跳越技

国内で D スコア 6.0 の跳越技に挑む選手は一昨年、昨年と比較し増えている。また、大欠点なく着地をまとめる実施も徐々に増えてきた。今後は雄大性、安定性に加え、着地の準備局面で上体が高い位置での余裕ある完結をしめす跳越を求めたい。

□ 平行棒

- ① 倒立位を経過する振動技で角度減点の無い安定した実施
- ② 振幅の大きさや雄大な空中局面を示した実施

倒立を経過する振動技は、流動的でありながらもいつでも静止できる実施が望ましく、静止することが不可能と思われる捌きは減点の対象となる。倒立位での握り直しは毎回減点の対象となる。

□ 鉄棒

- ① 雄大な空中局面を示す安定した手放し技や終末技の実施
- ② 倒立位を経過する技、ひねりを伴う振動技での角度減点の少ない実施

ひねりを伴う技の角度の逸脱は厳密に対処する。両大逆手や片大逆手になる技で 45° を超えた逸脱に対しては 0.30 の減点が課される。

7. 2016 年度内規

□ 以下に示す競技会以外の大会で適用する。

- ・ 第 70 回全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）
- ・ 第 55 回 NHK 杯体操
- ・ 2016 全日本ジュニア体操競技選手権大会（1 部）
- ・ 第 70 回全日本学生体操競技選手権大会
- ・ 2016 全日本シニア体操競技選手権大会（1 部）

① 終末技グループの要求難度について

- ・ A 難度の終末技・・・ +0.10
- ・ B 難度の終末技・・・ +0.20

② 下記の宙返り下りは A 難度とする

- ・ つり輪、平行棒、鉄棒の前方・後方（かかえ込み・屈身・伸身）宙返り下り

□ マナー・モラルについて

採点規則に記載されていない競技会での演技中や演技の前後、競技場内での行動や振る舞いについて、マナー・モラルの観点から、以下の内容を守っていただきますようお願い申し上げます。

① 着地の際のガッツポーズ

演技の終了を示すポーズと礼をするまで演技の一部です。着地直後にガッツポーズをとることは控えてください。

② 平行棒での事前調整

跳馬終了後、種目移動前の事前の準備や演技後での器械の調整は 3 名までと致します。また、選手が着地のポーズをとっている最中に次の選手やコーチがマット上に上がることをないようにお願いします。

③ マグネシウムや霧吹き等の使用方法

準備の際、マグネシウムをばら撒くように使いマットを白く汚したり、霧吹きや雑巾を投げるなど乱雑に扱うシーンが見受けられます。また、手に大量にマグネシウムを付けた後、叩いたり、マット上で擦り落とす光景も見られます。器械器具や消耗品を問わず、道具の取り扱いには注意を払うようにお願いします。

④ ローテーション時の整列

全種目とも審判席の前に整列をして下さい。また、整列直前での器械やプロテクターの調整は控え、他種目で整列している選手を待たせないようにして下さい。

⑤ 採点間や待機時（ウォームアップ時以外）のマット上での練習

特別に許可された大会を除き、マットや跳馬の助走路での柔軟や倒立は控えてください。

⑥ 頭髪や服装、タトゥー

国際大会でタトゥーを入れている他国の選手が見受けられます。文化・風習の違いはありますが、日本においては禁止と致します。また、多くの方が不快に感じる奇抜な頭髪や服の着こなしなどは避けてください。体操競技は美を競うスポーツです。アピールは美しい演技でして下さい。

⑦ 携帯機器の使用

携帯機器をアリーナ内で使用することは禁止されています。競技中は使用を避けて下さい。競技会の様子や成績などについて、SNS 等による情報発信は不特定多数が見る場への投稿であることを十分に理解し、「著作権」や「肖像権」も慮り責任をもって対応して下さい。取り扱いには十分ご配慮願います。近年の簡易な通信伝達手段の普及により、様々な情報が瞬く間に伝播されています。大変便利な反面、真偽が判らない情報も制限なく発信されており、選手に関することや発信元が不明なルールに関する事なども見受けられます。そのような情報には惑わされることないようにするとともに発信源にならないようご注意ください。

※ その他、選手・コーチ・審判員は、競技会場内外における自身の行動にもご注意いただき、マナーアップへのご協力をお願い致します。

8. おわりに

審判委員会
男子体操競技審判本部
本部長 高橋 孝徳

第 31 回リオデジャネイロオリンピックまで、残すところあと 6 か月となりました。5 月の NHK 杯、6 月の全日本種目別選手権を経て、代表候補選手が決定されます。選手・コーチの皆さんにとりましては、オリンピックに向けて、一日一日が貴重な時間になっていると推察いたします。

昨年の世界選手権グラスゴー大会では、念願の団体金メダルの獲得を含め、金メダル 4 個、銅メダル 1 個と大きな成果を挙げました。しかしながら、勝利を手繰り寄せる難しさを痛感し、どんな状況下でも安定した演技を遂行できる必要性を改めて感じました。

団体決勝では中国との D スコアの差が 4.30 点でありました。グラスゴー大会では、中国にも大過失がみられ、結果的に救われた感がありますが、相手も何度も同じ過ちを繰り返すことはないでしょう。選手の皆さんには D スコアの差を少しでも縮め、習熟度の高い安定した演技を迫及していただきたいと存じます。一方、個人総合においては、内村航平選手が世界選手権 6 連覇を達成することができました。種目別においても、白井健三選手がゆかで金メダル、萱和磨選手があん馬で銅メダル、内村選手が団体、個人総合に続き鉄棒で 3 つ目の金メダルを獲得しました。

7 月に韓国で開催されました第 28 回ユニバーシアード光州大会では、二大会ぶりに団体金メダルに返り咲き、計 9 個のメダルを獲得いたしました。各大会に出場した選手はもとより、コーチやトレーナーの方々を含め派遣された選手団、ジュニア時代から指導に携わられた全国の体操指導者に敬意を表したいと存じます。

男子審判本部では、代表選手の選考にあたり、より一層、審判技術を向上させるとともに公平・公正に審判業務を遂行する所存です。

情報 23 号では新たに追加された規則を盛り込み、今年の採点指針を作成し掲載しました。内容を熟知し、自己研鑽に役立てて頂きたいと存じます。「難度認定及び演技実施の確認事項と FIG 通達」は採点上での重要な事項が記載されています。別刷としましたので現場や各競技会で活用して下さい。また、D スコアのランキングを新たに掲載いたしました。世界や日本の上位陣のスコアを把握し、D スコア向上への一助にしていきたいと存じます。

『2017 年版採点規則』の発行ならびにその伝達研修会（1 種審判員義務研修会）は 2016 年度事業となり、1 種審判員の参加が義務付けられています。次期サイクルからは 1 種審判員のカテゴリー制度が導入され、日本代表選考競技会に帯同するコーチは伝達研修会への参加が義務付けられます。これにより審判技術の一層の向上と新しい情報の入手や現場への活用が推進されることを期待致します。採点規則の改定は、国際体操連盟の動向・通達をもって進められます。次期ルールを通達、並びに国際審判員講習会の日程につきましては、決まり次第、協会ホームページ等でご連絡致します。

リオデジャネイロオリンピックにおいて団体金メダルを獲得し、“リオで勝って東京で連覇”を実現できますよう選手、コーチ、審判員、関係者全ての力を結集し達成できますことを期待致します。